

武漢事務所週刊ニュース 16号(2012年7月28日~8月3日)

武漢は毛沢東が泳いだ長江文化パークを建設 場所は長江バンドの八角楼に選定

8月2日 長江ネット

毛沢東主席は武漢で何度も長江を泳いで渡り、「万里の長江を泳ぎ渡れば見渡す限りの湖北の空 どんなに風が吹き波に打たれても 静かな庭をそぞろ歩くより勝る」という有名な詩歌を残している。昨日、武漢市政治協商会議によると、年内に漢口の長江バンドにて「毛沢東が泳いだ長江文化パーク」が建設される予定であり、場所は毛沢東主席がかつて長江を渡るスタート地点とした八角楼に決定した。

情報によると、武漢が今年、四つの大きな重要な文化的景観プロジェクトを実施し、長江及び漢水両岸の更なる人文的な雰囲気づくりをめざす。この四大重要な文化的景観プロジェクトは「毛沢東が泳いだ長江文化パーク」、「星光大道(2期)プロジェクト」、「国際友好の森」、「長江の水生生物レリーフ」となっている。

「毛沢東が泳いだ長江文化パーク」では、毛沢東主席の題字が刻まれた水防記念碑及び八角楼エリアを統合する。「星光大道(2期)プロジェクト」では、庶民の英雄を公開募集し、段階を踏んで、彫像を作ることで、武漢人の英雄気質をアピールする。「国際友好の森」は長江バンドの三陽路に位置し、園内では、17 友好都市の市の花、市の木を植えており、友好都市を代表するオブジェを置くほか、友好都市のトップと共に記念植樹ができるようにスペースを確保している。「長江の水生生物レリーフ」においては、長江で最も代表的な水生生物をモチーフにした大きなレリーフを作り、長江バンドの水文化の豊かさや、水環境の大切さを人々に伝える。

武漢は来年初のバス高速輸送システム「BRT」を建設

8月3日 長江日報

武漢市企画局によると、来年、武漢市は武昌の雄楚大街の高速化改造工事と合わせ、初のBRTを建設する予定である。

BRTとは、バス高速輸送システム(Bus Rapid Transit)の略称である。これは公共バス専用道路と新型のバス停を設置し、インテリジェンス交通システムと運営管理システムを組み合わせた近代的な公共バスの技術を利用したもので、公共バスを地下鉄サービスのレベルに押し上げる特殊な都市客運システムである。別名「地上の地下鉄システム」と呼ばれている。

武漢市交通発展戦略研究院の責任者によると、この初のBRT導入区間は武昌駅から、静安路、雄楚大街を經由し、江夏区の流芳駅までの全長13.2kmとなる。

BRT は専用道路として整備されており、他の車による通過は一切禁止となる。インテリジェンス交通管制システムでは、BRT の信号を感知し、ラッシュ時に交差点での赤信号を青信号に自動的に切り替え、バスの走行を優先されるようになる。通常の間帯においても、信号待ち時間は一般車両より短縮される。BRT が完成すれば、雄楚大街のバス路線は改良され、現在の 38 本から 25 本になり、資源の大幅な有効活用が図れる。これらの措置により、BRT のさらなる便利さや定時性を確保できる。BRT が完成すれば、バスの平均速度が現在の 18 kmから 25 kmにアップされ、武昌駅から流芳駅までの所要時間が短縮され、30 分程になる。